

学校評価についてのご意見・ご感想

こうした教職員による自己評価，保護者・地域の方々による評価，児童による評価の分析・結果について，学校評議員会理事会で話し合い，たくさんのご意見・ご感想を出していただきました。以下，ご意見・ご感想を簡単に要約して掲載させていただきます。

- ・児童の実態についてのアンケートで無答があるがどういう意味なのか。
- ・無答については担任以外の教職員がつけたもので，評価項目によっては答えられない項目もある。全教職員が答えられる評価項目にするのは難しい。
- ・基本的な生活習慣の項目で，「毎日朝ごはんをしっかりと摂るなど毎日の食生活がきちんとできている」のは，ほぼできているのに，早寝・早起きと睡眠時間の確保ができていないのは矛盾しているのではないか。
- ・たとえパン1個，牛乳1杯でも朝ごはんを摂っているととらえるなら評価は高くなるし，きちんとした食事でないとは摂っていない，ととらえると評価は下がる。今後は，朝ごはんの定義をもっと明確にしたほうが良いのでは。
- ・昨年度と比べると全体的に評価が低いのではないか。教職員は毎年メンバーが入れ替わるので評価基準をもっと明確にしたほうが良い。児童を観る視点を共通理解したほうが良い。昨年度は後期に評価が上がったが，今年はどうか。
- ・読書の習慣が身についてきているのは良いことだが，大切なのは本の内容である。最近携帯小説が流行っていて子ども達もよく読んでいるようだ。携帯小説は小学生にとってふさわしくない内容のものが多く，大人が子ども達の読んでいる本の内容をよくチェックすることが大切だと思う。
- ・学校では今年度たくさんの本を購入した。今後も読書ボランティアや絵本の会の方々のご協力を得ながら読書量を増やすと共に，読書の質についても追及していきたい。
- ・教職員と保護者による評価と児童による評価を比べると，児童による評価が一番厳しいように思う。一番正直に答えているのではないか。教職員や保護者は「こうあってほしい」という願いも含まれているように思う。もっと評価に対して真摯であってほしい。
- ・保護者と児童による評価，それぞれの評価項目に「1」の評価が少なからずある。これは，「少ない割合だから良い」という捉え方ではなく，「わずかでもいる」という事実を謙虚に受け止め，究極的にゼロにしていかなければならない。

これらの貴重なご意見・ご感想を真摯に受け止め，今後の学校教育活動に生かしていきたいと考えています。